

短 報

大阪市立自然史博物館所蔵のアベサンショウウオ
の 1 標本*

南部 久男
富山市科学文化センター

アベサンショウウオは、京都府北部と兵庫県北部に分布が限られ(松井, 1995), 環境庁の絶滅危惧種に指定されている(環境庁編, 1991)。今回, 大阪市立自然史博物館所蔵のアベサンショウウオの 1 標本について調査したので報告する。

サンショウウオ科 Hynobiidae
アベサンショウウオ
Hynobius abei Sato, 1934

1. 標本データ

標本番号: OMNH Am 163 (大阪市立自然史博物館
両生類資料)
性別: オス
採集年月日: 1959年12月20日
採集場所: 京都府中郡峰山町五箇 (ごか) 鱒留
(ますとめ)
採集者: 田中道夫 (たなか みちお) 氏
保存状態: アルコール漬け

柴田保彦氏 (前大阪自然史博物館館長) の私信によれば, この標本は, 同氏が, 1959年12月19日, 20日にアベサンショウウオの調査に出向き, 20日に地元の研究家である田中道夫氏に案内してもらった際に, 田中氏が毎年産卵がみられるポイントである山間の水田の溝 (水中) で採集された 1 個体である。19日は, 柴田氏単独で京都府中郡大宮町長岡 (姫宮神社境内) で調査を行ったがアベサンショウウオは発見されず, 結局 2 日間の調査で, この 1 頭のみが採集されたとのことである。

2. 形態

1) 外部形態

<計測値>

全長 (total length) 104.9mm
頭胴長 (snout-vent length) 62.4mm

頭長 (head length) 15.6mm
頭幅 (head width) 12.9mm
吻長 (snout length) 4.4mm
上眼瞼 (upper eyelid length) 3.8mm
上眼瞼間距離 (interorbital width) 4.4mm
胴長 (vent length) 46.8mm
尾長 (tail length) 42.5mm
前肢長 (fore limb length) 18.8mm
後肢長 (hind limb length) 21.3mm
尾基部の尾高 (tail height at base) 9.0mm
尾基部の幅 (tail width at base) 8.1mm
尾中央部の尾高 (tail height at middle) 9.0mm
尾中央部の幅 (tail width at middle) 4.9mm

(胴の後端は, 総排泄腔前端, 尾の中央部は尾長の 1/2の部分とした。上眼瞼長は左側を測定した。)

頭から, 頸, 胴, 尾にかけ全体的に太い体型である (図 1)。頭部は, やや三角型の外形を示し, 後半部はかなり隆起する。頸はほとんどくびれず胴に続く。胴の断面はほぼ円筒形である。肋条は左右とも12本で, 肋皺は左右とも11。尾は基部が太く, 後方にいくにしたがい扁平になる。四肢は頑丈で太く短めである。指の長さは, 長い順に, 左前肢で II III I IV, 右前肢で II III I = IV, 後肢は左右とも III IV II I V。総排泄腔周辺は膨らみ, 前端には小突起が認められる。

本標本の頭胴長は, Matsui and Miyazaki (1984) の

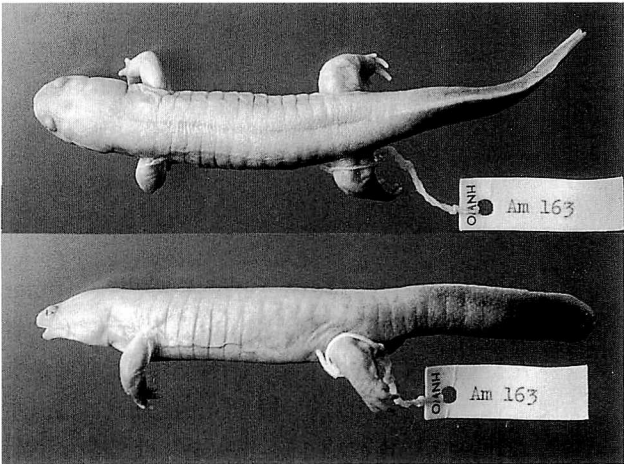


図 1 アベサンショウウオ (OMNH Am 163)
上, 背面; 下, 側面。

* 富山市科学文化センター研究業績第188号

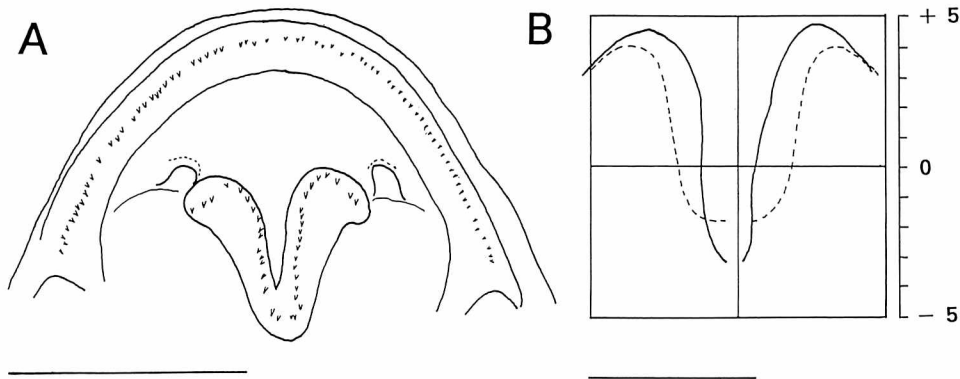


図2 鋤骨歯列
A, 口蓋; B, 鋤骨歯列模式図。表現方法はNambu (1986) に準じた。破線は、佐藤 (1943) の頭骨の鋤骨歯列より作図。Aの棒線は、5 mm, Bは2 mmを示す。

報告したアベサンショウウオのオスの平均値57.8mm
(最小48.5mm, 最大68.0mm, N=24) より大きい。

2) 鋤骨歯列

<計測値>

鋤骨幅 (distance between inner rims of vomers)	3.62mm
主枝前端と後端間の距離 (distance between anterior and posterior portions of inner parts)	2.83mm
主枝前端間の距離 (distance between anterior tips of inner parts)	2.07mm
主枝中央部間の距離 (distance between middles of inner parts)	0.72mm
右外枝長 (length of right outer part)	0.94mm
左外枝長 (length of left outer part)	0.91mm

(計測方法はNambu (1986) に準じた。)

鋤骨歯列 (vomerine tooth series) の主枝 (inner part) は、狭く長いV字状を示す (図2)。前端は肋骨内縁を結んだ線の付近まで達し (+4.5), 後端はかなり後方まで達する (-3.3)。外枝 (outer part) は、主枝から緩くカーブした状態で続き、先端は、右が肋骨内縁から外に飛び出し、左が内縁付近まで達する。佐

藤 (1943) は、本種の鋤骨歯列は幅が広く深いU字形であるとし (図2, B), 変異の1例として幅の狭いV字形を示す個体があることを報告しており、今回の標本の歯列もこの変異例に類似すると思われる。
歯は、右鋤骨に18本 (主枝に15本, 外枝に3本), 左鋤骨に21本 (主枝に19本, 外枝に3本) の計37本が生える。上顎には、71本, 下顎には、53本の歯が生える。

謝 辞

大阪市立自然史博物館前館長柴田保彦氏には、標本データにつきましてご教示いただき、同館学芸員波戸岡清峰氏には、標本借用の便宜を図っていただきました。両氏に深くお礼申し上げます。本研究は、平成8年度科学研究費補助金 (08918011) の一部を使用した。

文 献

環境庁編, 1991. 日本の絶滅の恐れのある野生生物, レッドデータブック, 脊椎動物編. 財団法人自然環境研究センター, 東京. 271pp.
松井正文, 1995. アベサンショウウオ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料」(日本水産資源保護協会): 405-409.
Matsui, M. and K. Miyazaki, 1984. *Hynobius takedai* (Amphibia, urodela), a new species of salamander from Japan. Zool. Sci. 1: 665-671.
Nambu H. 1986. On *Hynobius takedai* (Urodela, Hynobiidae) from lowland of Toyama Prefecture, Central Japan. Bull. Toyama Sci. Mus. 9: 73-85.
佐藤井岐雄, 1943. 日本産有尾類総説. 第一書房. pp. 520. pl.31.